

特別支援学級の 1クラス

8人を6人に。

2学年以内で 学級編制して ください。

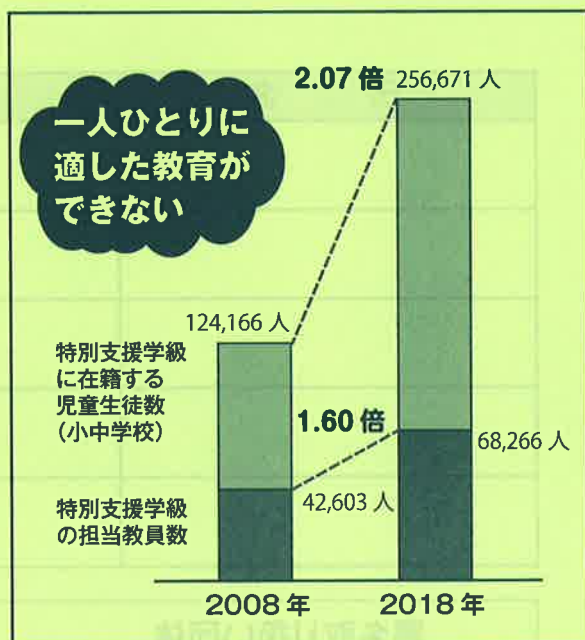


小学校、中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒が急増し、10年間で約2倍になっています。様々な障害や発達段階の子どもが在籍しているため、一人ひとりに丁寧な指導をしたくても、担任1人で、8人の子どもたちに対応するには限界があります。

また、小学1年生と6年生では、課題がかけ離れており、同じクラスで生活するには無理があります。中学校3年間は、思春期を迎え、進路の悩みもあり、体と心の変化の個人差が特に大きい時期です。1学級の上限を6人とし、小学校も中学校も学年に配慮した学級編制をすることで、一人ひとりに合わせた丁寧な指導ができます。

こんな子どもたちがいます

- 知的障害の子ども
(学習課題がさまざま、生活面でも支援が必要…。
→ゆっくり関わり丁寧に学習を積み重ねていきます)
- 情緒障害の子ども
(ゲームで負けて怒ってしまう、不安の裏返しの暴言や暴力…。
→気持ちを受け止めながら対応します)
- 発達障害の子ども
(音に敏感、字の読み書きが苦手、気持ちのコントロールが苦手…。
→それぞれのつまづきに合わせた指導をします)
- 聴覚・視覚・肢体障害の子ども
(見えにくい、聞こえにくい、マヒや車いす…。
→一人ひとりの障害に合わせて指導方法を工夫します)
- 医療的ケアの必要な子ども
(痰の吸引やインスリン注射、経管栄養…。
→看護師さんと協力しながらの対応が必要です)



要請署名にご協力ください

全日本教職員組合障害児教育部・教組共闘連絡会

〒102-0084 千代田区二番町12-1 TEL 03-5211-0123

特別支援学級の編制標準の 改善を求める要請署名

【要請趣旨】

全国的に特別支援学級在籍者の児童生徒数が増え続け、2008年に12万4166人だった小中学校の特別支援学級在籍児童生徒数が、2018年には25万6671人と2.07倍となっています。一方、担当教員数は、4万2603人から6万8266人と1.60倍にとどまっています。また、在籍する児童生徒も、医療的ケアが必要な子ども、学年に沿った教科学習が可能な情緒障害の子ども、個別対応が常時必要な子ども等々、実態に大きな差があります。

学級編制に学年は配慮されません。小学校では1年生から6年生まで、中学校では1年生から3年生までの複数学年の子どもたちが在籍していても、8人以内は1クラスです。発達や生活年齢、学年に応じた指導が必要であるにもかかわらず、十分な対応ができないのが現状です。

多様な課題をもつ子どもを一人で担任し、授業準備と家庭との連絡、それぞれの学年行事やクラスの授業への付き添いなど、担当教員の負担は限界を超えています。しかし、1993年の第6次定数改善以来、特別支援学級の編制標準は1学級8人のまま変わっていません。

特別支援学級での教育を豊かに発展させるために、下記のことを要請します。

【要請事項】

1. 特別支援学級の編制標準を6人とすること。
2. 特別支援学級の学級編制においては、通常の複式学級同様に2学年以内で編制し、小学校で1年生が在籍する学級は少人数編制とすること。

氏 名	住 所 (「同上」「//」は使わないで下さい)
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県

署名取り扱い団体

全日本教職員組合障害児教育部・教組共闘連絡会

〒102-0084 千代田区二番町 12-1 TEL 03-5211-0123